

「特別の教科 道徳」学習指導案

日時 令和元年 6月26日(水) 第5校時

第2学年1組 24名

授業者 永澤 永子

<目指す児童像>

自分の想いや考えを伝え、友達の思いを聞くことができる児童

- 1 主題名 『やりぬく心』(A 努力と強い意志)
教材名 「さかあがりができるよ」(出典:東京書籍 『あたらしいどうとく2年』)

2 主題設定の理由(指導観)

(1) ねらいとする価値(価値観)

困難なことにもくじけず、努力することは、自分を向上させるために大切なことである。つらいことや難しいことに直面してやめてしまおうとする気持ちを克服して、物事を最後までやり遂げたときの喜びが自分を大きく成長させることになる。結果だけでなく、そこに至るまでの努力の大切さを考えるようにしたい。

(2) 児童の実態(児童観)

明るく、活動的な児童が多い。当番活動や係活動など、決められた仕事はできるようになっていて、決められたことは自分の仕事としてきちんと行わなければならないことを意識できている。

何でもやってみようと思う気持ちは旺盛で、新しいことにはすすんで取り組もうとする。しかしそれが難しいことであったり、面倒なことであったりすると、途中でやめてしまう傾向がみられる。

児童は、がんばることを、「できないことをできるようになろう」として努力するものだと捉えている。自分の力でやり遂げたときはうれしいものであり、それが自信につながる。「よし、やってみよう」という気持ちになれるよう努力を認めていきたい。

(3) 教材について(教材観)

できなかった逆上がりができるようになるために、休み時間や夏休みにも練習に励み、夏休みの終わりにはとうとうできるようになるという内容の話である。先生や母親に励まされ、それを成し遂げた喜びに共感するようにしたい。

中心発問では、夏休みになっても練習を続ける「わたし」の気持ちを問う。できないことを地道に努力している主人公に自分自身を重ねながら考えさせるようにしたい。また、努力の結果、逆上がりができるようになったときの気持ちも考えさせたい。投げ出したくなりながらも、最後までやり抜いたときの気持ちを想像させ、がんばった後の心地よさに共感させたい。

3 低学年ブロック分科会の取組

(1) 学習指導案の作成において話題になったこと

- ・ねらい（希望と勇気、努力と強い意志）の価値やねらいの設定について。
- ・ねらいとする価値について、児童の発達段階に見合っているか。
- ・中心発問について、どのように発問を厳選するか。
- ・展開に後段で、自分の生活を振り返らせるために、どのような発問をすればよいか。

(2) 学習指導案の作成までの取組

- 5月23日（木）学年で内容項目について検討する。
- 6月10日（月）学年と研究主任で資料分析表を基に発問を精選し、主発問を決める。その後、校長と学年、研究主任とともに検討する。
- 6月11日（火）低学年ブロックにて指導案を検討する。その後校長と学年、研究主任とともに検討する。
- 6月17日（月）研究推進委員会にて指導案を検討する。
- 6月18日（火）事前研究（2年3組）
- 6月25日（火）低学年ブロックにて指導案を検討する。

4 研究主題に迫るための手だて

(1) 「主体的な学び」に導くために

発問の工夫

- ・資料の内容を想起し、ねらいとする価値への方向付けをしやすくするために、導入において鉄棒遊びに取り組んでいる子供たちの様子を提示し、発問を行う。

資料提示の工夫

- ・資料の内容を理解し主体的に考えやすくするために、紙芝居を見せながら読むようにし、それを場面絵として活用する。

(2) 「対話的な学び」に導くために

学習形態の工夫

- ・座席をコの字型に配置し、友達の間を見ながら発言を聞くことで、友達の考えを受け入れやすくする。
- ・隣の席の子と意見交換することで、様々な考えがあることを知り、それを受け入れるようにする。

(3) 「深い学び」に導くために

板書の工夫

- ・主人公の気持ちを曲線で表すことで、気持ちの変化を視覚的にわかりやすくする。

発問の工夫

- ・主人公のより具体的な心情が考えられるようにするために、単純に気持ちを聞くのではなく、「どんなことを考えていたのでしょうか」と発問するようにする。

- ・児童の発言に対し、聞き返す発問を行い、より深く考えられるようにする。
- ・後段において、資料の主人公の心の動きを確認したうえで、自分の生活を振り返るような発問を行い、今後につなげていくようにする。

話し合いの工夫

- ・中心発問では、隣の友達との対話→全体交流の流れで話し合いを行い、「わたし」のいろいろな気持ちに気付かせるようにする。

5 本時の展開

(1) ねらい

わたしがさか上がりができるまでの心情の変化を考えることを通して、自分で決めたことは、最後まで努力し続けようとする心情を育てる。

(2) 本時の展開


過程	時間	学習活動（○発問◎中心発問・予想される反応）	◇指導上の留意点 ◆評価（方法）
導入	5分	1 鉄棒遊びをしたときのことを思い起こす。 ○鉄棒遊びの動画を見てみましょう。 ・○○さん、すごい。 ・○○さん、練習がんばっているな。	◇興味を喚起するために、鉄棒遊びをしている様子を電子黒板に映し出し、ねらいとする価値への方向付けをする。
展開	20分	2 「さかあがりができたよ」を読んで話し合う。 ○一人では回れなかったとき、「わたし」はどんなことを考えていたでしょう。 ・くやしい。 ・早くできるようになりたい。 ・どうしてできないんだろう。 ・やめてしまおうか。 ◎夏休み、ひざの少し上が鉄棒にとどくようになったとき、「わたし」はどんな気持ちで、練習を続けたのでしょうか。 ・絶対にできるようになりたい。 ・できるまで頑張ろう。	◇話の内容がよくわかるように紙芝居を使って読み、場面の絵を提示していく。 ◇場面絵も活用して、「わたし」がどのように練習してきたか確認する。 ◇似たような経験がある児童には、そのときの気持ちがどうだったかを考えるように話す。 ◇主人公の気持ちを曲線で表すことで、気持ちの変化を視覚的にわかりやすくする。 ◇長い間、こつこつと練習を続けていることを押さえる。 ◇ワークシートに書いた後、隣の友達と対話→全体交流をする中で「わたし」のいろいろな気持ちに

	<ul style="list-style-type: none"> ・ どうしてできないんだろう。やめようかな。 <p>○何回も逆上がりができたとき「わたし」は、どんな気持ちだったでしょうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ やっとできた。うれしい。 ・ 一生懸命練習してよかった。 ・ あきらめなくてよかった。みんなに見てもらいたい。 	<p>気付かせるようにする。</p> <p>◆努力し続ける「わたし」の様々な気持ちを考えることができたか。 (観察・ワークシート・発言)</p> <p>◇あきらめなくて最後までやり抜いた時の気持ちを想像させる。</p>
--	--	---

展開・後半	15分	<p>3 自分の生活を振り返る。</p> <p>○今までの中で「わたし」のように、あきらめずに頑張ったと思うことはありますか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 水泳を頑張った。 ・ 九九をすらすら言えるように練習している。 	<p>◇これまでの行事や日記の内容などを振り返りながら考えるようにさせる。</p> <p>◇ワークシートに書かせることで深く考えさせるようにする。</p> <p>◇児童の発言に対し、聞き返しの発問を行い、最後まで努力することの大切さに気付かせる。</p> <p>◇自分のこれまでの努力を認める中で、今後に向けてどのように努力を続け、やりぬいていくのかの意欲につなげる。</p> <p>◆自分の生活を振り返り、自分で決めたことは、最後まで努力し続けようとする心情をもつことができたか。(発言)</p>
	5分	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<p>◇こつこつと努力をして力をつけた子供の姿を紹介する。</p>
終末			

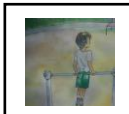
6 板書計画

一生けんめいがんばってよかったこと



何回もできたとき

・あと少し。ぜったい
にできるようになり
たい。がんばろう。



でもむずかしいかな。
やっぱりできない。

ひぎの少し上がとどくようになって

・早くできるようにになりたい。
・どうしてできないのだろう。やめようかな。
・くやしい。

ひとりでまわれなかったとき

さかあがりできたよ

てつぼうあそび

鉄棒遊び
の写真

7 本時のワークシート

さかあがりできたよ ②

今まで「わたし」のように、あきらめないでがんばって、よかったことはありますか。書いてみましょう。

さかあがりできたよ ②

今まで「わたし」のように、あきらめないでがんばって、よかったことはありますか。書いてみましょう。
